

熱田小児科クリニック掲示板

8月のテーマ 『夏風邪』

(医)熱田小児科クリニック「ひまわり」スタッフ

典型的な症状は…のどの痛み(赤くなる) 発熱 発疹 下痢 腹痛

〈代表的な夏風邪〉

冬の風邪やインフルエンザは低温、低湿度を好むウイルスが原因ですが、夏風邪は高温、高湿度を好むウイルスによって起こる感染症です。

疾患名	原因ウイルス	流行時期	好発年齢	潜伏期
咽頭結膜熱	アデノウイルス	7～9月*	3～6歳	5～7日
ヘルパンギーナ	エンテロウイルス属	6～8月	1～4歳	2～4日
手足口病	エンテロウイルス属	5～9月	1～5歳	3～5日

*最近では、夏季以外にも流行がみられることがあります。

〈注意すること〉

- ・夏の暑さで体力が落ちているところに、エアコンをかけっ放しで部屋を冷やしすぎたり、寝冷えをしたりすると、夏風邪にかかりやすくなります。
- ・ほとんどは1週間程度で回復しますが、まれに髄膜炎、脳炎などの重い合併症を起こすことがあります。発熱が長引いたり、頭痛や嘔吐などが続く時にはすぐに受診しましょう。

髄膜炎とは…風邪のウイルスや細菌が髄膜(脳や脊髄を被っている膜)に感染し、炎症を起こす。高熱や激しい頭痛、けいれんなどの症状が出ると言われている。

☆保護者の方へ☆

- ・症状が強い時は…高熱が出た時には、解熱剤、のどの痛みには炎症を抑える薬など対処療法を行います。熱がなかなか下がらなかったり、頭痛や嘔吐などがある場合には、早めに再受診しましょう。
- ・症状がなく元気な時は…特別な治療を必要としません。登園、登校は本人の状態を見て、主治医と相談して決めましょう。
- ・食欲がない時には…食べられない時でも水分はしっかり補給しましょう。食欲が出てきたら、消化の良い口当たりの良い物を食べさせましょう。喉が痛い時は、スープやヨーグルト、プリンなどがおすすめです。